

令和4年度刀根山支援学校運営協議会 第3回会議 議事録

日 時：令和5年2月14日（火） 15：00～16：30

場 所：本校：多目的ホール

出席者：井村 修、山田 亨、齊藤 利雄、川見 ゆか（学校運営協議委員）

高原 健、高原 浩徳、大井三津子、澤井 啓祐、三澤 誠一、船木 雄太郎

桑名 智寛、池上 真由、橘岡 正樹、阿部 壮太、小山 輝雄（事務局員）

欠席者：平賀 健太郎、河西 ゆかり（学校運営協議委員）

1 学校長挨拶

2 協議事項

（1）令和4年度 学校経営計画及び学校評価（案）について

校長：「学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見」

- ・学習指導等に関する項目の中で児童生徒の評価が高い水準ながらも肯定的評価が89%と7ポイントマイナスとなった。また、「周りの人とのつながりに気を配ってくれているか」、「行事は楽しく参加できているか」の問いに対する評価も前年度よりマイナスの評価となった。生徒指導についてはプラス評価が多かったものの、学校運営については「学校運営に教職員の意見が反映されている」がマイナス6ポイントであった。

委員：精神分教室の進路に関する講話の依頼をいただきお話しさせていただいた。自分は今まで高等学校教育が専門ではあったが、病院との連携など参考にさせていただき講話させていただいた。良い経験になった。「学校運営に教職員の意見が反映されている」がマイナスになった原因は何か。

校長：本校は5つの部署に分かれているが、各分教室や部署との意見交換がしっかりできなかった。また、管理職と首席で開く企画会議を今年度は1回しか行うことができなかった。

校長：「本年度の取り組み内容及び自己評価について」

1 切れめのない支援の推進

- ・各教科で年1回研究授業を実施するとしていたのだが、実際には1つの教科でしか実施できなかったのが△と思っている。
- ・ロボットプログラム選手権については近畿東海北陸地区予選で敗退であった。
- ・「自分の進路について考える機会がある」に対する肯定的評価が56%から65%に上昇した。しかし、65%という数字が病弱支援学校として高い数字なのかそうでないのかはこれから他校と比較するなどして検討していかないといけない。
- ・地域校や関係者に授業見学を10回以上実施するについては、まだ年度が終わっておらず確定していないが予定では11回である。

委員：評価指標において学校教育自己診断(R4、11月～12月に実施)を使用しているので仕方ないところはあるが、私が精神分教室に1月に講演に行かせて

いただいた時には興味を持って聞いてくれていたので「自分の進路について考える機会がある」の項目は◎でも問題ないと思う。

委員：「各教科で年 1 回研究授業」は少しハードルが高すぎたのか。

校長：はじめは各教科 1 回と思っていたが今となっては高いハードルだったかもしれない。

委員：「授業はわかりやすく楽しい。」は評価指標で「90%を維持する」とあり、95%なのに○である。◎になる基準は？。

校長：例年この部分に関しては高い水準で推移している。数値は高いがここは本校として一番大切にしているポイントなので、今後聞き方を変えるなど検討したい。

委員：委員からも◎で構わないのではという意見があるのでそのようにしてはどうか。

校長： 2. 専門性の向上と支援の継承

- ・総合医療センター分教室の滝井セミナーでは 598 名の参加があり、阪大病院分教室でも今まで中止していたが今年度は人数制限はあったものの、集合形式で開催することができた。
- ・本校の実践報告集を現在作成中である。
- ・冊子『筋ジスの理解と教育』を活用し地域の学校に通う児童生徒への支援を広げていく、という取り組みに対して、啓発にとどまったため△としている。

委員：総合医療センター分教室の滝井セミナーについては 598 名も参加しているので◎でもよいのではないか。

校長：今年度はオンデマンドのセミナーだったが、来年度は会場開催で行い参加できなかった人にはオンデマンド参加という形を想定している。

委員：リーディングスタッフの派遣回数 10 回を目指すとなっているが、実績では 23 回行っているので目標を越えているが？

校長：確かに回数的には目標よりたくさん行けている。前年度 5 回であったので 10 回としたが、この 10 回という回数が地域貢献できている回数かどうかは今後、見極めたい。他の支援学校が 200 回行っているなどと聞くと目標が低すぎたかかもしれないとも思っている。

校長： 3. 安心・安全な学校づくり

- ・「行事は楽しく参加できるように工夫されている」では評価指標を 85%としたが、児童生徒の肯定率は 83%であったので△とした。
- ・「人権教育」に関する項目の肯定率評価指標 90%で昨年度より 4%下がったが 90%は維持したので○とした。

委員：先生方の評価が下がった原因は何か。

校長：確かに下がったが高いところは維持している。他の学校と比べると低いとは思っていない。職員の回答率が 97%で評価指標は 4%マイナス。人数に、置き換えると 1～2 名の減少ではないだろうか。内容や参加の方法はしっかりと行えていると思う。

委員：先生方の評価が下がるのは何かの問題があると思うので、原因を探ってしっかりとフィードバックして次につなげてほしい。

(2) 令和 5 年度学校経営計画（案）について（別紙）

校長：「1. めざす学校像」に関しては変えていない。

校長：「2. 中期的目標」について

- ・1. 病弱教育における切れ目のない支援の推進の（2）と（4）でこれまで 3 年間の肯定的数字の経年変化を入れた。
- ・2. 病気のある児童生徒への支援を図るための専門性の向上と支援の継承では（3）に筋ジス以外に心身症等に関する支援も項目に入れた。
- ・3. 安心・安全な学校づくりでは（3）の項目に 3 年間の経年変化を入れた。現段階で（4）は経年変化を入れていないが今後、入れていきたい。細かいところで変えたところはあるが大きくは変えていない。

「1. 切れ目のない支援の推進」について

- ・「授業はわかりやすく楽しい」に対する肯定率が 90%以上と高い水準で推移しているので別項目で考えたほうが良いのではないかと考えている。この部分はちょっと考えさせていただきたい。
- ・ICT 機器を利用した活動や WEB 交流会・社会見学など本日いただいた◎がついている項目については項目を再度検討しないといけないと思っている。
- ・豊中市・枚方市教育委員会にお願いして研修に参加させていただいている。実態に即している市の研修も多いとの意見もあるので来年度も続けていきたい。
- ・「自分の将来や進路について考える機会がある」の肯定的評価 70%としているがこれが適切な数値なのか、他の学校を調べながら考えたい。この項目が 1 番数値が低い、この数値を上げていきたい。移植待機児童生徒のように数年単位の長期入院の児童生徒も増えてきているので進路に関する指導も大切であると思っている。

「2. 専門性の向上と支援の継承」について

- ・セミナーの総参加者数は今後、600 名を目指したい。
- ・リーディングスタッフ相談回数 10 回としているが今年の実績を踏まえて 20 回に設定したい。

- ・全病連の実践発表について次年度は行われませんが、その代わりに近病連や大病で発表したい。そのために指標を変えさせていただきたい。

「3. 安心・安全な学校づくり」について

- ・「行事は楽しく参加できるように工夫されている。」の肯定的評価を 85%に設定した。今年度 83%と切ってしまったので再度設定したい。
- ・自立活動の項目については 90%以上の設定で行きたい。
- ・備蓄品の配備については年度末に向けて再度検討し年度初めに何が必要かを考えたい。

委員：・正式な令和 5 年度の学校経営計画(案)は来年度の第 1 回の時に提案されるということでよいか。

- ・進路に関しては支援学校の中でも刀根山支援学校は転出入の動きが大きいし、他の支援学校とは違ったところがある。分教室も多く、刀根山支援学校の場合は数値だけでは測れないところもあると思うので、丁寧に行う教育が大切だろう。学校教育自己診断だけで測れるものではないと思う。

(3) 報告・連絡

(1) 各部署の年間教育活動の状況について

本校訪問：

- ・今年度から本校教育部と訪問教育部の 2 つの部署が合併した。試行錯誤しながらの 1 年だったが、病院の協力もあり行事もできた。生徒会では訪問教育部の長期入院の児童と本校の高等部の生徒がオンラインでつながり、4 人で活動することができた。年代を越えて交流することができた。
- ・進路については、高 3 生の進路先が決まった。循環器では中 3 に院内受験の生徒がいる。
- ・授業では北野病院では 1 年間を通じてオンライン授業対応となった。循環器では心臓移植待ちの児童生徒が増えてきている。ICT を使った授業の取り組みも増えてきて、アバターロボのクビを使用し、実際には車いすに乗っている生徒がアバターの世界で動けることを楽しんでいる。

大阪精神医療センター分教室：

- ・前半は在籍数が少なかったが、現在は満床である。特に小学 1, 2 年生が多い。発達障害や不登校の児童生徒が多いが統合失調症の子どもも増加した。感染症の影響で入学式が延期されたが、4/15 に行うことができた。プレハブ校舎が増設され 4 月より運用を開始している。

大阪大学医学部附属病院分教室：

- ・今年度は小学生より中学生のほうが在籍数は多かった。昨年、一昨年同様

デイルームが使えず大運動会などできない行事もあったが形式を変えて行った行事もあった。特徴としては小児がんや心臓移植待機の児童生徒が多く在籍し、小児がんの場合で半年から1年、心臓移植待ちの場合は2年近くの子どももいるため、感染症の拡大などで病棟内の制限を受けると精神的にストレスを受ける子どももいた。

関西医科大学総合医療センター：

- ・病院がコロナの患者をたくさん受け入れているので大阪府の感染拡大が増加すると小児科の病床が減ることもあった。9月と12月は小児科の病床を減らしたため病棟移動になった。ODや摂食障害が多い。摂食障害の子どもは約2～3か月の入院。小学生もいる。ODは約4週間が基本。
- ・子どもたちの変化としては今までは地域校で教室に入れなかったが院内学級では授業を受けることができた子どもが多かった。しかし、今年度は院内学級でも登校が難しい子どもが多かった。

関西医科大学附属病院分教室：

- ・児童生徒の在籍数がコロナの前の水準に戻ってきた。教室の人数制限があり、ベッドサイド授業や次週で対応することが多かった。他部署からたくさん応援に来ていただいた。今年度からCLSが配置されたので連携をとっている。また、ツルミホスピスや関西医科大学の牧野病院のリハビリのOTやPTとも連携している。

(2) 令和4年度授業アンケートについて

- ・別紙に示したとおりである。教員対象の授業アンケートであるが、精神や滝井は不登校など勉強嫌いな子どもも多いため、数値を見るとときにどの分教室も同じ水準では見ていない。

(3) 令和4年度の学校教育診断票について

- ・教職員では児童生徒会の項目が20ポイント以上アップ。校内の研修も16ポイントアップした。人権研修を3回行い、事例検討会、研究授業など様々な取り組みの成果と思われる。いじめについての対応も13ポイントアップ。病院と連携してすぐに対処できた成果であろう。
- ・児童生徒では、いじめについて10ポイントアップ。事案が大きくなる前にしっかり教員が対応できているからではないか。
- ・保護者では「懇談や学校行事等の参加」で24ポイントダウンしている。阪大では毎学期懇談を行っており、肯定的意見が多いが短期入院の場合、懇談までいないケースも多く、各分教室によってばらつきがある。精神分教室では保護者にアンケートを取っていない。それらによる、母数が少ないことも要因として考えられる。

- ・病院関係者では前年と比べてすべての項目で評価が上がっている。一番上昇しているのが病院と学校との定期連絡会が役に立っているかという項目で 8.7 ポイントの上昇だった。たとえば循環器病院では学期に 1 回連絡会を持つようになったことも影響しているだろう。

4 その他

- ・大井教頭…委員の皆様には今までは封書で学校運営協議会の案内をさせていただいていたが、次回からはメールでの案内とさせていただきたい。
- ・委員…同意

『学校運営協議会の案内は、次回よりメールで行う』で、協議委員が承認。全員一致の意見